

新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン

青木バス株式会社

令和2年6月26日

1. 始業点呼時の対応

運行管理者は、点呼にあたっては、特に次の事項に留意して、これを行います

(1) 乗務員に係る事項の確認及び対処

- 点呼時の健康チェック(体温、風邪症状の有無の報告及び確認、健康チェックシート)
- 発熱、せき等確認時の自宅待機
- マスク着用、手洗い励行等感染予防対策の確実な実施の確認
- 健康チェック表による乗務員の健康状態の確認
- アルコール検知器の除菌

(2) 車内の感染防止対策の確認及び対処

- 点呼までの間に自社で実施した車内消毒実施の確認
- 運転席の感染防止対策確認、乗務手袋着用の励行
- 消毒液、清拭消毒用具等搭載のチェック
- 乗務員用のマスク、使い捨て手袋の予備搭載の確認

(3) 運行管理者自身のとるべき措置

- 運行管理者と運転手の間の適切な距離の確保
- 運行管理者等のマスク着用、点呼前後の手洗い等

2. バスの運行時における対応

バスの運行時には、特に次の事項に留意して、これを行います

また、乗客に対して協力をお願いすべき事項は、原則として、旅行会社からお客様へお願いする事とさせていただきます。

(1) 乗車時・降車時

①当社の対応

○以下の点について、車内アナウンス等により乗客の方へ協力依頼をします

- ・マスクの着用、大声での会話の手控え
- ・乗車時及び再降車時における手指の消毒
- ・降車時、必要に応じ通路に立ち列ができない順次の離席

○乗客との間の一定の距離確保又は換気に留意して、運転席周りの仕切り等により濃密接触の防止

○消毒液の常備装備

○可能であれば、現場の判断により、乗客降車時に手すり等複数の乗客が接触する可能性のある部分の消毒

○乗客への乗降支援後の手指の消毒

○手荷物の受け渡し等におけるマスク、手袋の着用

②旅行会社への対応依頼

○出発前に乗客者の体調管理(体温、体調チェック)を行い、発熱や感染の疑いのある症状を呈している乗客の方には、旅行参加を遠慮して頂く事を願います

③乗客への協力依頼(原則として旅行会社を通じて協力依頼)

○乗車時・再乗車時の乗客の手指消毒

○通路での乗客の滞留が起きない様に、乗車時の小グループに分かれての乗車、降車時の順次の離席をお願いします。

○旅行参加者が新型コロナウイルス陽性と診断された場合には、旅行会社へ連絡頂くよう依頼する

○旅行会社へ感染者発生時に備え、参加者・契約者の連絡先情報を2週間保存する事を依頼する

(2) バス運行中に於いて

(全般、車内換気)

①当社の対応

○運転時(車内アナウンス時を含む)のマスク着用の徹底

○外気換気モードによるエアコンの使用を基本とし、更に乗客の協力を得て、現場判断により随時窓の解放をすることによる車内換気の徹底

○バス車内換気能力が十分であることの乗客へのPR

②ガイドの対応

○アナウンス時も含めてマスク着用の徹底

○アナウンス時には、 possible の限り前方を向いて行う等、工夫に努める

③利用者への協力依頼

旅行会社を通じ、以下の対応につき乗客に協力を依頼する

○乗車中のマスク着用

○会話、特に大声による会話のできる限りの手控え

(乗客サービス)

①当社の対応

○②で禁止等の協力要請をすべき、乗客サービスとして揚げた事項につき、旅行会社に乗客への協力要請を行って頂くようにお願いする

○禁止事項を車内備え付けのリーフレット等で、改めて乗客への周知を図る

○SA、PA等における休憩は、できる限り長めの取る(旅行会社への協力依頼)

○車内ゴミの回収時には、マスク、使い捨て手袋を着用し、原則持ち帰り、やむを得ずゴミ捨てした場合は、手洗い・消毒を徹底する

②乗客への協力要請

○以下の事項等につき、旅行会社より乗客に協力依頼する

・座席位置に関する配慮やマスクを着用いただくこと

・車内における飲食はできる限り避け、特に飲酒・大声での会話は極力控えていただくこと

・カラオケの利用及びサロン席での飲食・歓談は、原則として禁止頂くこと

・トイレ付車両では、便器の蓋閉め後に洗浄頂くこと

○ゴミは、エチケット袋に入れ、原則として持ち帰る やむを得ずゴミ捨てした場合も入念な手洗い、手指消毒を励行する

3. 仕業終了時の対応

(1) 帰庫点呼

○発熱、咳症状、呼吸困難等の症状などの健康チェックを行う

(2) 車内消毒・清掃

○手すり等、特に乗客が頻繁に手を触れる箇所を入念に、運転席周り、その他車内を清拭消毒、カーテン等については消毒液噴霧による消毒

(注) 車内清掃・消毒は、原則としては1仕業毎に実施するが、手すり等乗客が頻繁に触れるような場所は、可能な場合には、現場の判断により、更に随時適宜実施

○清掃時のマスク、使い捨て手袋の着用の徹底

○窓開け等による車内換気

○トイレ付車両のトイレ清掃に当たっては、マスク、ゴム手袋着用

○車内点検工具など共用器具使用後の手洗い、手指消毒の励行

(3) 宿泊時の感染防止

○手指消毒の徹底

○宿泊中の健康チェック(体温、風邪症状の有無等健康チェック)

○体調不良時の乗務中止

4. 乗客、乗務員の体調不良

乗客及び乗務員の中に体調不良者が発生した場合には、通常事故、死傷者発生等の緊急事態対応を基本としつつ、以下の点に留意して対応する

(共通)

○営業所等の緊急連絡体制の整備

・乗務員は営業所(運行管理者)への連絡、指示により対応

○接触箇所の消毒の徹底

○感染者のプライバシー保護

(乗客の体調不良)

○運行管理者の指示に従って対応

○乗客対応時のマスク、使い捨て手袋着用の徹底、乗客対応後の手洗い等徹底

○状況に応じ、救急車の手配

(乗務員の体調不良)

○乗務中の発熱、体調不良の際の運行管理者への連絡の徹底及び乗務中止

観光バス及び路線バスの車内換気能力

大型車メーカー等の協力のもと、主な観光バス及び路線バスの車内換気能力についてまとめました。

観光バスの車内換気能力（別紙1）

窓閉めで **約5分**

※ エアコンを外気導入モードで使用。なお、車両は停止状態

8割以上の車両で、窓開けによる換気も可能

路線バスの車内換気能力（別紙2）

大型車から小型車までの

全タイプで **約3分**

※ 換気扇2機（大型・中型）又は1機（小型）を使用
なお、外気導入のための一部窓開け、デフロスター作動等が必要

○ 大型観光バスの車内換気能力

別紙1

	日野		いすゞ		三菱ふそう			UDトラックス	ヒュンダイ	
	現行モデル	前モデル	現行モデル	前モデル	現行モデル	前モデル	前々モデル	前モデル	現行モデル	前モデル
										
代表型式 （大型観光系）	RU1ESAA	RU4FSEA	RU1ESAG	LV7系	MS06	MS96	MS8*	AS96	2DG-RD00	LDG-RD00
車内換気能力 （停車時）	約5分	約7分	約5分	約6分	約5分	約5分	約5分	約5分	約7分	換気扇無し
製造開始年	2005年	2000年	2005年	1996年	2017年	2007年	1992年	2007年	2017年	2010年
窓開けができる車両の割合	85%	90%	85%	85%	90%	90%	90%	90%	80%	80%
現在の市場に占める割合 （各社毎）	75%	12%	84%	16%	15%	55%	30%	100%	9%	91%

※ 各メーカーの現行モデルの車内換気能力に関する公開情報

日野： <https://www.hino.co.jp/corp/news/2020/20200417-002601.html>

いすゞ： <https://www.isuzu.co.jp/oshirase/200529.html>

三菱ふそう： https://www.mitsubishi-fuso.com/oa/jp/information/COVID-19_measure_sightseeing_bus/index.html

ヒュンダイ： <http://www.hyundai-motor.co.jp/support/notice.html>

※ 排気能力と車室容積をもとに換気能力の時間を算出したものです。

三菱ふそう観光バスの新型コロナウイルス新生活様式への対応

三菱ふそうでは、今後の新型コロナウイルス対策の新生活様式の一つとして、観光バス・高速路線バスの運行においてバス室内の密閉を防止することから、バス車内の換気を推進する「外気導入固定運転」を推奨致します。

通常大型観光バスの室内換気に関しては、車両後方の強制排気(強制的換気)と自然換気を設定しており、「自動運転モード」室内巡回と外気導入を自動切り替えで快適な室内循環を提供しております。

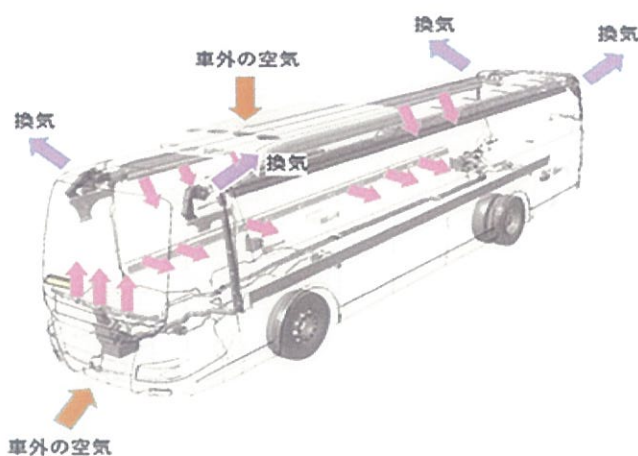
ご提案の「外気導入固定運転」においては、約5分で室内の空気を入れ替えることができます。

更に マイクロバスにおいては、同様に約6～7分で室内の空気を入れ替えることができます。

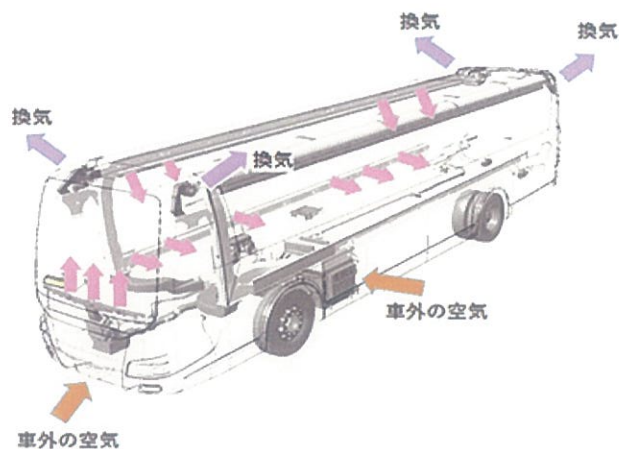
三菱ふそう製バスの換気性能一覧

バスモデル	換気性能(外気導入時)	特記事項
MS (HD,SHD)	5分	
MM	4分	
MP	5分	換気扇2個追加時
ROSA (ホイールベースE・G)	6分	換気扇なし
ROSA (ホイールベースJ)	7分	換気扇なし
ROSA (ホイールベースE・G・J)	3分	換気扇付

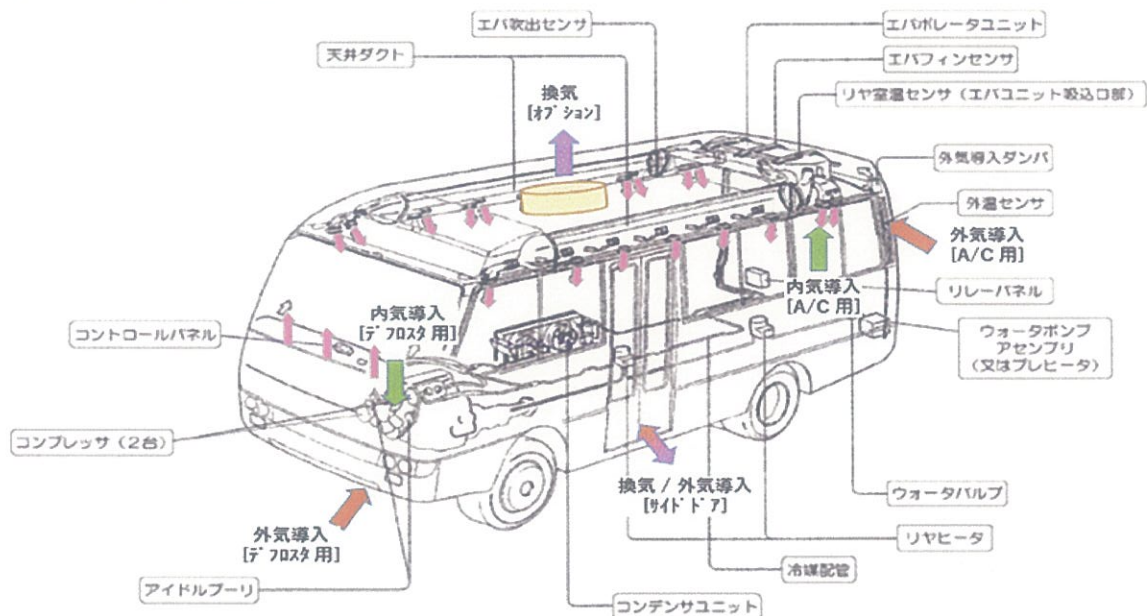
大型観光バス・天井A/Cタイプ



大型観光バス・床下A/Cタイプ



マイクロバスタイプ(Rosa)



COVID-19

新型コロナウイルス対策に対応した アルコール検知器使用

にあたっての留意事項

新型コロナウイルスの対策として、手洗いとアルコール除菌が基本となっていますが、手指や検知器をアルコールで除菌した直後の測定による誤検知が散見されています。このため当協議会では、新型コロナウイルス対策を徹底しつつ、アルコール除菌による誤った判定を防ぐために、以下の4つの手順を推奨します。



手順①

手指を
アルコール除菌



手順②

石鹸で手指洗い



手順③

アルコール検知器
の使用



手順④

手指を
アルコール除菌



- アルコール検知器を使用する際は、室内を事前に十分換気するか、風通しの良い環境を確保してください。
- 手指用のアルコール除菌剤は高濃度のアルコールが含まれており、特にジェルタイプの場合手指に付着したアルコールが完全に乾燥するまで時間がかかることがありますので、十分石鹸で手指洗いを行ってからアルコール検知器を使用してください。
- また、アルコール検知器の近くに、アルコール消毒液又はアルコールを含む除菌剤や手指洗浄剤を置かないでください。数値表示したり、数値がゼロに戻る可能性があります。

※アルコール検知器の除菌方法は、各社の機器特性もありますので、ご使用メーカーにお問い合わせください。



アルコール検知器協議会
JAPAN BREATH ALCOHOL TESTING CONSORTIUM